



愛媛県議会議員 ふくら浩一の

大福レポート

2011年 新春号

ブ
レ
ない。

取り戻そう! ふるさとの活力。



今治市宮窪町の鵜島にて。みかん収穫期に鵜島住民の皆さんと。

そのためには、ふるさとに軸足をしつかりと置いた政治活動と、創意工夫を凝らした政策、加えて、苦しい財政状況の中での「選択と集中」による厳しい政治判断が求められていると痛感している所でございます。ところが、政権交代以降、沖縄基地問題や尖閣諸島問題等の国の根幹に関わる政策と対応は混迷を極め、明確な方針が未だ出されおりません。また、地方に深く関わる政策においても、当初の「約束」とは全くかけ離れたものとなつております。不安を感じている方々も多いのではないでしょうか。

地方政府が疲弊していくは、真に力のある国姿はありません。ふるさとの美しい風景を、産業を、そしてふるさとを愛する心を次世代に継承していくことが私の願いであり、今後もブレることなく、より一層、地域の課題に全力で取り組んでいく所存でございます。引き続き、皆様のご指導とご鞭撻を心よりお願い申し上げます。寒い日が続きますが、どうかご自愛ください。

平成二十三年 新春



愛媛県議会議員

福羅 浩一

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は格別のご懇情を賜り、厚く御礼申し上げます。

早いもので皆様方の温かいご支援とご指導をいただきながら、県議として三年九ヶ月が経過しました。この間、県議会において四度の一般質問、常任委員会と特別委員会での質問、その他の議員活動等の機会を通じ、地域の諸問題に対応すべく、私の精一杯の持てる力を尽くしてまいりました。

常日頃、多くの方々に支えていただき、一步一步政治家としての成長を実感しながら前進させていただいております。これもひとえに皆様のご支援の賜物であり、改めて伏して感謝を申しあげます。

さて、国際化の中で競争に打ち克つたための経済力、技術力こそが我が國の最も重要な個性として尊重されてきました。しかしながら、止まらない円高、不安定な株価、長く続く不景気や雇用不安等から、我が国の特性と活力が失われつつある危機感を感じずにはいられません。地域においても同様であり、「ふるさとに影をさす不景気や人員整理に何とか歯止めをかけてほしい」「あるいは、「急速に少子高齢化が進む地域が少しでも早く元気を取り戻してほしい」等々、切なる願いを自らの目で見、耳で聞いてまいりました。

そのためには、ふるさとに軸足をしつかりと置いた政治活動と、創意工夫を凝らした政策、加えて、苦しい財政状況の中での「選択と集中」による厳しい政治判断が求められていると痛感している所でございます。ところが、政権交代以降、沖縄基地問題や尖閣諸島問題等の国の根幹に関わる政策と対応は混迷を極め、明確な方針が未だ出されおりません。

また、地方に深く関わる政策においても、当初の「約束」とは全くかけ離れたものとなつております。不安を感じている方々も多いのではないでしょうか。

(知事答弁) しまなみ海道の通行料金体系はどうあるべきと考え、その実現に、今後どのように取り組んでいくのか。



越智今治森林組合にて

(農林水産部長答弁) 「財団法人愛媛の森林基金」が実施をしている放置森林対策では、水土保全機能を高度に発揮することが望まれる森林を対象に、平成十四年度から十ヵ年で4,800haの間伐を目標に森林整備を行つており、これまでの八年間に計画の七十一%に当たる3,396haを実施した。今後一年間で残りの1,400haを実施する計画である。当事業の終了後速道路料金における地域間格差を解消して、地域活性化と物流の効率化を図るために、少なくとも一般高速道路と同等の料金体系とする必要があると考える。そうした中、今年の四月に公表された上限料金制は、本四道路のみに割高な別料金が設定され、しかもこれまでの各種割引制度が廃止されるという内容であり、遠距離通行における地域間格差は全く解消されず、近距離通行も結果として実質値上げとなるなど、非常に問題がある案である。



(2) 森林整備対策について
(1) 愛媛の森林基金による放置森林の間伐等の事業について、実績と今後の取組みはどうか。

(3) 放置竹林整備について、今後どう取り組んでいくのか。

(農林水産部長答弁) 竹は短期間で再生可能な資源として有用であることから、本県では、平成十六年度に竹資源循環利用促進の具体的な行動計画を策定し、竹資源の有効活用と竹林整備の両面から放置竹林対策に取り組んでいる。竹資源の有効活用では、リサイクル企業が開発をした有機肥料の原料等として、今年度から竹材を供給する取組みへの助成を開始するなど、民間における竹資源の多面的な利用を支援している。また、竹林整備では、所有者が竹林を伐採し、広葉樹等への転換を図る取組みに対し助成を行うほか、緊急雇用や森林共生緊急対策事業を活用し、放置竹林や侵入竹の伐採・整理を行っている。さらに、ボランティア団体が行う竹林整備にも、森林環境税を活用して支援をしており、これらの事業により、昨年度は約50haの竹林整備を図った。今後とも、森林組合など関係団体はもとより、広く県民との協働を進めながら、活用と整備の両面で放置竹林対策を推進して参りたい。

第318回 愛媛県議会本会議 一般質問

〜地域の皆様の「声」を背負つて〜

平成22年度 9月24日

「声」

を背負つて

(2) 今後、里山の整備にどのように取り組んでいくのか。

も、水土保全機能を高めるための整備が今後とも重要であり、ダム等上流の奥地水源林地で放置された森林も存在することから、これまで進めてきた間伐の効果等も見極めながら、事業の継続等について検討していきたい。

みんなでつくろう、 愛顔(えがお)あふれる愛媛県

昨年11月に行われました愛媛県知事選挙において、圧倒的大差で中村時広氏が当選されました。

松山市長時代の彼の行政手腕は皆様ご存知だと思いますが、50歳という若さ！で知事として今後、愛媛のために東奔西走し、全国に愛媛県を全力でアピールしてくれるものと期待しております。

中村知事の民間感覚を持った産業や観光の振興、また、中山間地域や島しょ部を元気にしていきたいという熱い気持ち、そして何よりも若く斬新な発想を持って県政に向き合う姿勢に共鳴しているところでございます。

まだ足元にも及びませんが、同じ若手政治家として、共に県政改革に取り組み、「愛顔(えがお)あふれる愛媛県」をつくっていきたいと考えております。



③外来魚対策について

(1) 外来魚が原因と思われる内水面における漁業被害と駆除活動の状況はどうか。

(農林水產部長答弁)

全国の河川、湖、沼では、外来魚の侵入・増殖により、在来魚が漁業被害を受けるなど、水産資源への悪影響が懸念されており、本県においても主要な河川に外来魚が生息し、放流したアユやアマゴが食べられるといった被害の被害が報告されている。また、水産研究センターが野村ダム湖とその周辺河川で実施した調査では、ブラックバスがフナやハゼ等の小魚を好んで捕食し、特に四月から五月にかけては、上流に遡る天然のアユを捕食していることが確認をされており、将来、アユ資源の減少につながることも危惧されている。このため、愛媛県内水面漁業協同組合連合会では、外来魚による漁業被害の軽減を目的に、



玉川ダム湖にて

(2) 外来魚をはじめとする外来種の影響を正しく理解してもらうため、県民に対する啓発にどのように取り組むのか。

県では、昨年四月に、本県の野生動植物の生息・生育に著しい影響を与えるか、与える恐れのある八十八種について、「侵略的外来生物」として公表するとともに、今年三月には、ブラックバスやブルーギルなど特に注意が必要な外来生物の特徴等を記載した「外来生物対策マニュアル」を作成した。また、今年五月に松山で開催された生物多様性キャラ

⑤ 岩城橋の着工に向けて、今後どう取り組んでいくのか。

(土木部長答弁)

(4) 県庁第一別館と本館等の耐震化について、今後どう取り組むのか。

パンセミナーにおいて、外来生物の防除法などについての研修を行い、さらに、県のホームページを活用して、県内の外来生物などに関する情報を広く募り、県民意識の向上を図ることとしている。今後とも、県民の主体的な参画を促しながら、外来生物による生態系や人の健康、農林水産業への影響などを周知するとともに、被害を防止するための「入れない」「捨てない」「抜けない」という三原則について遵守を徹底させるなど、県民への理解が一層深まるよう積極的に啓発して参りたい。

業部会を毎回開催してもらっているが、旦念な
耐震化が必要である。このため県では、平成
十三年度に耐震診断、平成十九年度には耐震
補強の工法や必要費の概算等について調査
を行い、これを基に、耐震安全性や改修コス
ト、県民サービスへの影響などについて、総
合的に検討を行い、最も耐震安全性に優れ、
工事中も執務室の移転が不要な「免震工法」
により耐震改修工事を実施することとしてい
る。厳しい財政状況の中、国の交付金を有効
に活用し、今回の補正予算で工事着手に必要な
実施設計を行い、平成二十四年度には防災
拠点となる第一別館の改修工事に着手したい
と考えている。また、本館、第二別館、議事
堂については、昨年度実施した耐震診断の結
果、全ての庁舎に一部耐震強度が不足する部
分はあるが、いずれの庁舎も補強工事により
継続使用は可能となっていることから、今後
診断結果をさらに精査し、県立学校をはじめ
とした県有施設全体の中での優先順位や財源
の確保などの課題も踏まえつつ、耐震化に向
けた検討準備を銳意進め参りたい。



生名橋の閉合式



完成間近の生名橋

ふくら浩一のルーツ その弐 「鵜島」^{うしま}～村上水軍の本拠地～

「鵜島」（宮窪町）とは、村上水軍の本拠地として名高い「能島」のすぐ東側に位置する島で、この鵜島内の地名には、水軍当時のものと思われるものが数多く残っている。この地名をたどっていくと、造船・兵糧・関所・古井戸・奉行所跡・代官屋敷跡など、島全体が村上水軍の総本部のような機能を持っていたようである。

ところが、天正13年（1585年）、豊臣秀吉の四国征伐により、伊予・河野氏は城を開き、能島城は落城する。その時に鵜島は住民四散してしまった。

徳川の時代となり、福羅家の開祖である村上吉親は、弓削佐島の福羅地区に移り住み姓名を土地にちなんで「福羅文左エ門」と変えた。彼の子孫で鵜島福羅家の開祖・福羅弥三右エ門が、明暦元年（1655年）に織田家の開祖・織田信義とともに弓削佐島から鵜島へ入植した。現在でも鵜島の墓地に両名の刻字が入っている墓が残存している。

その後、約350年以上もの間、この鵜島には、ほぼ「福羅」と「織田」の2つの名字しかなく、血縁関係も濃厚である。



ふくら浩一の主な活動

～全ては地域の活力のために～

ふくら浩一は議会活動だけではなく、さまざまな活動をしています。



「男子は生涯一事をなせば足る」 秋山好古



県議会常任委員会視察（彦根市）



今治市民のまつり「おんまく」にて



「元気えひめの会」で加戸前知事夫婦と



米沢 視察
(上杉鷹山像の前で)



「桜を見る会」にて
(細田博之元官房長官と)



県政報告会で皆様一人一人に
感謝を込めて握手



大学校友会親善ソフトボール大会にて
(早稲田大学初優勝)



米沢 視察
(上杉鷹山像の前で)



瀬戸内アームレスリング大会にて
(世界4位の金井選手と)



自民党一期生で山形視察
(天地人の直江兼続像と)



日本丸 今治就航
(舵の前でご満悦)



NPO法人 麦の穂の新工場にて
(おいしいパン売ってます)



しまなみ10周年記念イベントにて
(しまなみ大使の皆さんと)



新年会で子ども達と餅つき



後援会員有志との吳市視察
(大和ミュージアムで戦艦大和の模型と)



全国県議会対抗野球大会にて
(全国優勝しました)



日韓議連でピョンテク市視察
(議長席に座らせてもらいました)



衆議院議員選挙で司会を担当



水軍レース大会の仲間たちと
(みんなでガツッポーズ！)



水軍レース大会にて
(技能賞を獲得しました)



ふくら浩一のプロフィール

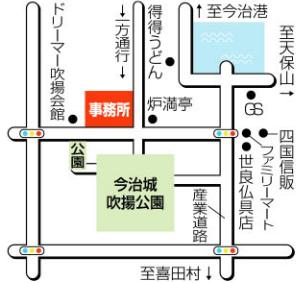
1968(昭和43)年11月7日生
今治市立別宮小学校 卒業
今治市立近見中学校 卒業
愛媛県立今治西高校 卒業
早稲田大学社会科学部 卒業
参議院議員 山本順三
2007年愛媛県議会議員選挙において初当選

出身地：今治市
血液型：Rh-のA型（ちょっと珍しい）
星座：蠍座、五黄土星
好きな言葉：從流志不變
(流れに従えど志を変えず)
尊敬する人物：坂本龍馬
趣味：読書、格闘技観戦、ドラム演奏、旅行
好きな食事：焼肉、カレーライス、タコ焼き

主な役職

県議会
環境保健福祉委員会 副委員長
環境災害特別委員
政 党
自民党愛媛県連 青年部長
自民党今治地域支部連絡協議会 幹事長
今治アームレスリング協会 理事長
瀬戸内と海帆船の会 会長

ふくら浩一後援会事務所開設致しました！



これからも精一杯活動してまいります。県政へのご意見・ご要望をお聞かせ下さい。

福羅浩一事務所

〒794-0036 今治市通町2-3-29 TEL 0898-34-0202 FAX 0898-34-0203
E-mail : fukura51@excite.co.jp ブログ : http://fukura51.exblog.jp/

